



県民の森 植物紹介

④④

ヤマツツジ (ツツジ科)



日本の野生ツツジの代表種です。山で見られるツツジであることが名の由来です。新緑のころ、漏斗状の色鮮やかな朱赤色の花が咲きます。ヤマツツジの花は食べられますが、ツツジはレンゲツツジなど強い毒のあるものも多いので注意が必要です。

冬になっても枝先に小さな葉が残っているのが目立ちます。ヤマツツジは半落葉樹で、春に出た葉は秋に紅葉して落葉しますが、秋に新しい葉が出てそのまま冬を越します。秋葉は小さくて枝先に輪生状になっているのでわかります。また秋に熟す実も冬まで残っていることが多いです。

ときどき、枝先に茶色のまるい毛玉のような不思議なものがついています。これはツツジミマルフシという名のついた虫こぶです。ヤマツツジの果実がタマバエの仲間のしわざで肥大したものです。中に幼虫室があり複数の幼虫が入っています。

県民の森では七滝登山道や希樹園、市町村の森などで見る事が出来ます。新緑のころ、山のなかで出会う花は素朴で清々しいです。また冬に、ほとんどの木々の葉が落ちた森で出会うヤマツツジの小さな秋葉は、雪景色のなかでとても印象に残ります。



落葉直前の春葉と秋葉（濃い緑）

2020年11月14日



膨らみ始めた冬芽 2020年4月20日



芽吹き（春葉） 2020年5月4日



花 2020年5月23日



紅葉 2020年11月11日



実 2020年11月10日



虫こぶ 2020年8月6日